

第249回 令和8年6月12日（金）

## 「杉原千畝について」

杉原千畝は1900年1月1日に岐阜県で生まれました。名古屋の東京外語大学（現在の東京外国語大学）でロシア語を専攻し、東アジアやロシア地域の情勢を専門とするようになりました。

旧満州国の奉天関東庁で仕事を始め、その後、日本外務省に所属します。

杉原千畝の最も有名な活動は、1939年から1940年にかけてリトアニアの在カウナス日本領事館に勤務していた期間に行った「命のビザ」の発給です。

第二次世界大戦中、ドイツのナチス党の迫害によりユダヤ人は命の危険にさらされていました。多くのユダヤ人が東ヨーロッパ諸国を経由して逃げる必要がありましたが、出国や通過のためのビザが必要でした。リトアニアのカウナスを訪れたユダヤ難民たちは、日本を通過して他の安全な国に向かおうと考え、日本領事館でビザを求めました。

当時はドイツのヒトラーは日本と同盟を結んでいましたので、その意向に逆らうことはできませんでした。しかし杉原千畝はユダヤ人難民を救うために、日本の外務省の命令に逆らってビザを発給しました。「困っている人を見捨てるわけにはいかない」という信念から、多くのビザを発給する決断をしたといわれています。

彼の発給したビザは約6,000人以上のユダヤ人の命を救い、そのビザを受け取った人々は「杉原ビザ」として感謝の意を表しています。

杉原は第二次世界大戦後、外務省を退職します。戦争中の行動が原因で日本政府からは冷遇されることもありましたが、後年その功績が徐々に認められるようになりました。杉原は私生活で様々な苦境に直面することもありましたが、自分のしたことによくを語らず静かに暮らしました。

1985年、イスラエル政府から「諸国民の中の正義の人」の称号を授与され、その功績が国際的に認められました。杉原千畝の行動は、「命のビザ」が直接的にユダヤ人難民の生存を助けたというだけでなく、彼が人間としての倫理観に従って、自国政府や組織の命令に背いても善を行ったという点で多くの人々に感銘を与えました。

彼が救った命はその後に広がり、子孫たちによってその精神が引き継がれています。他国の外交官たちとともに、戦時中の救助活動が人間の尊厳や連帯感を考える上での重要なモデルとなっています。杉原の行動は、戦争の負の側面の中で、日本が善の役割を果たした事例として、国際的な評価を受けています。

いま日本はアメリカの同盟国として、アメリカの行動を否定することはありません。もし現代に杉原が生きていれば、何を感じるのでしょうか。